

## マタイ 5・13-16

「あなたがたは地の塩である。あなたがたは世の光である。」とイエスは言われます。このみことばをあれこれ思いめぐらす前に、何よりもこのみことばの力強さに圧倒されなければなりません。イエスのこのみことばを聴く者は、イエスのこのみことばによって自分が何であり、自分が何のために生きているかを知ることが出来るからです。イエスのこのみことばは、私たちの中に神がお望みになる新しい人を造り上げる、新しい創造のみことばとして響いているかのようです。

今日の福音のこのみことばは、マタイ福音書 5 章から 7 章に続く一連のイエスの山上の説教の中のみことばですが、それに先立って、マタイ福音書 5 章の初めには次のように語られています。「イエスはこの群集を見て、山に登られた。腰を下ろされると、弟子たちが近くによって来た。そこで、イエスは口を開き、教えられた。」(マタイ 1・1-2)

イエスの評判を聞いて救いを求めて群がるように押し寄せて来た人々をご覧になったイエスは、従って来た弟子たちをお側近くに呼び寄せて教えられるのです。「あなたがたを人間を取る漁師にしよう」とイエスに呼ばれ、イエスに従って来た弟子たちは、救いを求めてイエスのもとに押し寄せる数知れない人々の中でイエスのお側近くに呼び寄せられて、自分たちに向けられているみことばとして今日の福音のみことばを聴いたのです。このみことばによって弟子たちはイエスが自分たちに何を期待しておられるのか悟らされるのです。「あなたがたは地の塩である。あなたがたは世の光である」とのみことばは、救いと癒しを求めてイエスのもとに押し寄せる群衆の中であって、地の塩、世の光となる使命を弟子たちに与えるみことばです。

山の上に座し、口を開いて語りかけるイエスのお姿とそのみことばは、旧約聖書の出エジプト記 19 章に語られているシナイ山での出来事を思い起こさせます。出エジプトの荒れ野の旅の道で、シナイの山の麓にたどり着いたイスラエルの人々はそこに天幕を張って宿営します。「モーセが神のもとに登って行くと、山から主は彼に語りかけて言われた」と語られています。そこでモーセが聞いたみことばは次のようなみことばでした。「ヤコブの家にこのように語り、イスラエルの人々に告げなさい。・・・今、もしわたしの声に聴き従いわたしの契約を守るなら、あなたたちは全ての民の間であってわたしの宝となる。世界はすべてわたしのものである。あなたたちは、私にとって祭司の王国、聖なる国民となる」(出 19・3-6)。これがモーセがイスラエルの民に告げるべき神のみこと

ばでした。

「あなたがたは地の塩である。あなたがたは世の光である」と山の上に響く今日の福音のイエスのみことばは、新しい神の民を呼び集めるイエスのみことばです。このみことばによってイエスのお側近くに招き寄せられた弟子たちは、「悔い改めよ、天の国は近づいた」と宣言されるイエスの弟子とされ、イエスにつき従うイエスの弟子としてのアイデンティティーと拠りどころを与えられるのです。

「あなたがたは地の塩である。あなたがたは世の光である」と今日の福音の山上に響くみことばは、ここに集う私たちにも向けられています。「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。だから、あなたがたは行って、全ての民をわたしの弟子にきなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことを全て守るように教えなさい」(マタイ 28・18-20)。復活されたイエスのこのみことばによって派遣された弟子たちの宣教によって誕生した教会の中で、私たちも洗礼を受け、イエスの弟子とされて、地の塩、世の光としての新たなアイデンティティーを与えられ、新たに誕生したのです。キリスト者としての私たちのアイデンティティーは、今日の福音に響くイエスのみことばを拠りどころとしているのです。その塩味を失わないように、その光が見失われることのないようにと、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいる」と言われるイエスは、今日のミサの中で私たちに教え命じておられるのです。私たちが集うこのミサは、イエスが弟子たちをお側近くに呼び寄せられたあの福音の山に繋がっています。私たちもイエスのお側近くに呼び寄せられて、イエスのみことばに身を浸したいと思います。洗礼によっていただいたイエスの弟子としての私たちのアイデンティティーを、地の塩、世の光としてのアイデンティティーを新たにしていきたいと思います。

「あなたがたは地の塩である。世の光である。」というイエスのみことばは私たちの中に新たないのちを生み出し、私たちのあり方を作り変える、イエスによってもたらされた、新たな創造のみことばです。「あなたがたは地の塩である。あなたがたは世の光である」というイエスの新たな創造のみことばによって、私たちはイエスのそのみことばが意味しているもの、つまり、地の塩、世の光としての、新たなみことばによる創造を体験したのです。私たちがそのことをどこまで受け止めきれているかどうかは、正直に言っておぼつかないところがあるのは事実ですが、私たちは洗礼を受けることによって、自分たちのうちに、みことばによる新たな創造を体験し、地の塩、世の光とされたのです。この地上の世における生活の中に埋没しきっていた私たちは、イエスのみことばによって目覚めさせられ、そのみことばを信じて受け入れることによって、イエス

のみ後に従って生きる新たな人とされたのです。洗礼の恵み中で私たちが体験したはずの、この新たな創造の事実が、私たちの視界の中にはまだぼんやりとしたものとしてしか映らず、そこに向かっての私たちの足取りが覚束ないからこそ、イエスは繰り返し繰り返し、私たちがいただいているこの恵みの現実を悟らせようとしていてくださるのです。それゆえ、今日もこのミサの中でイエスは「あなたがたは地の塩である。あなたがたは世の光である。」と呼びかけてくださるのです。

「地の塩である」ということは、私たちが生きるこの地上の生活の中であって、この地上の生活が全てだという生き方に対して、人が生きるということとはそれだけのことではないということを経験して生きるということです。「世の光である」ということは、私たちがその中で生きる人の世のあり方に対して、たとえ人の世の現実がどのように闇に閉ざされていようとも、そこにはイエスによってもたらされた神の光が差し込んでいることを証して生きるということです。私たちキリスト者は、神を信じ、イエス・キリストを信じて、そのみことばを受け入れることによって、この地上に住む世の全ての人々に対して、そのような証をするために、地の塩、世の光とされたのです。

山上の説教の初めに響いている、イエスがもたらす幸いのありかを告げるみことばを思い起こしましょう。(マタイ 5・3-12)

イエスによって指し示された私たちの真の幸いは、この世が約束する幸いを超えた幸いです。イエスが指し示しておられる幸いこそ、私たちが目指すべき真の幸いであると受け止めて、この地上におけるこの世の幸いだけを目標として生きる生き方から解き放たれて生きることが、地の塩、世の光とされた者たちの新たな生き方であるはずで、この世の変転極まりない幸不幸の波に押し流されながらも、その中で心迷い、涙を溜めて唇を噛むことがあっても、それだけが全てではないと、心の奥底でイエスのみことばを噛み締めることができるなら、この世の幸不幸の波間であって、私たちは確かな足場を見出すことができます。そのようにして、イエスのみことばによって、その都度新たに立ち上がらせていただくことが出来れば、この地上における世の人々の生活の中であって、私たちは地の塩、世の光としての新たないのちを証して生きる者たちとされるのです。この世の支配者顔をする悪霊を一言で追い払い、罪のゆるしを宣言することによって病める者を立ち上がらせ、死の眠りについた者をいのちの世界に呼び戻すことが出来る、イエスのみことばが、私たちの中に注ぎこまれた信仰による新たないのちを強めてくださるよう今日のミサで御一緒に祈りたいと思います。

カトリック高円寺教会  
主任司祭 吉池好高